

第 74 回結核予防全国大会決議文

2021 年の我が国の結核罹患率は人口 10 万対 9.2 となり、目標としてきた低まん延化が実現した。

これは長年にわたって結核対策を官民一体となって推進した成果である。

しかし、直近の 2 年間の急速な患者数の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え、医療機関の逼迫による患者発見の遅れ、健康診断の停滞あるいは入国制限に伴う外国出生者の減少等の一時的要因によることも考えられ、今後の動向を注視する必要がある。

世界の結核対策を見渡すと、2021 年の WHO の報告では新規患者は 1060 万人、死者数は 160 万人となり、ともに 2 年連続で増加した。コロナを除けば単一病原体としては死因の第 1 位である。このままでは、2030 年までに結核を終息させるという国連結核ハイレベル会合の持続可能な開発目標の達成が危ぶまれる。

我が国において今後は、低まん延化に続く究極の目標である結核の根絶のために、超高齢者・外国出生者などハイリスクグループに重点を置きつつ、患者の早期発見と確実な治療さらには潜在性結核感染症の治療などのために必要なあらゆる対策を着実に実行する必要がある。また、日本の結核罹患率の更なる低下のためにも、我が国の結核対策の経験を活かし、研究開発の強化を通して一層の国際協力を推進する必要がある。

併せて、患者の減少にともない、国民はもちろん医療従事者の結核に対する関心が薄れ、経験も少なくなることから、結核に関する意識の低下や差別、偏見が生じることがないように、正しい知識の普及と啓発活動、また、医療従事者に対する研修など更なる支援が求められる。

以上から、本大会は、国及び地方公共団体、関係医療機関及び結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせ、次の 4 項目について努力することを決議する。

- 一、新型コロナウイルス感染症流行の経験も踏まえて、結核に関する必要な対策や医療の提供が適切に行われるように、人材の拡充や情報通信技術の活用などの公衆衛生の強化及び結核医療体制の更なる見直しを図ること。
- 一、低まん延化に続く目標となる結核根絶のため、超高齢者・外国出生者などのハイリスクグループに重点をおきながら、予防啓発・服薬指導・医療対策を推進すること。
- 一、日本の罹患率低下を加速化し、WHO が進める結核終息戦略の目標を達成するために、必要な革新的技術の開発・普及を積極的に行うとともに、日本の結核対策の経験を活かした国際協力を一層推進すること。
- 一、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、国内外の関係団体と連携し複十字シール運動などを更に推進する。また、関係団体は結核のみならず感染症の予防のため、国民に対する正しい知識の普及や啓発活動を更に強化する。

令和 5 年 2 月 15 日

第 74 回結核予防全国大会

第74回結核予防全国大会宣言文

日本の結核の低まん延化は長年にわたる官民一体となった対策を着実に推進した成果である。我が国における次の目標である結核根絶のため、新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえて、公衆衛生の強化や結核医療体制の在り方を再検討しながら、予防啓発・服薬支援・医療対策を推進する。

また、世界の結核終息戦略に対しこれまで以上に大きな貢献を果たすため、日本の結核対策の経験を生かし、関係機関・国と連携しながら必要な更なる革新的技術の開発・普及を積極的に行い、国際協力を一層推進する。

以上、宣言する。

令和5年2月15日

第74回結核予防全国大会